

複式第5・6学年 国語科学習指導案

Ⅲ組 5年 男子8名 女子8名
6年 男子8名 女子8名 計16名
指導者 藤崎 智大

- 1 単元 筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう(教材「見立てる」[生き物は円柱形]5年光村上)
文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう(教材「感情」[生き物はつながりの中に]6年光村上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第5学年)

この期の子どもたちは、これまでに第4学年の「読んで自分の考えをまとめよう」で、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係をとらえる能力を身に付けてきている。また、筆者がどのようなことを伝えようとしているのか明確にとらえたいという願いもっている。

そこで、本単元では、各段落の要点や段落相互の関係から要旨をとらえる能力や、筆者の考えに対する自分の考えをもとうとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう」を設定した。この学習は、筆者の意図を考えながら読み、筆者の主張を受けて自分の考えを説明しようとする「文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「見立てる」は、想像力は自然や生活と深く関わっていること、教材「生き物は円柱形」は、多様な生き物の中にも共通性があることを述べている説明文である。また、両教材共に、「はじめ」と「おわり」に、筆者の主張が述べられており、その主張を証明するための根拠として、身近なものが具体例としてあげられているため、段落相互の因果関係や重要となる語句などを基に、要旨をとらえることを学ぶのに適した教材である。

そこで本単元では、内容の因果関係や文章構成を考えながら読み、要旨をとらえ、筆者の考えに対する自分の考えを友達と交流することを目的とする。

具体的にはまず、教材に対する意欲付けを図るために、生き物の写真等から形に着目させる。そして、教材文を通読し、大まかに内容をとらえさせて上で、疑問や感想を自由に話し合わせ

(第6学年)

この期の子どもたちは、これまでに第5学年の「筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう」で、文章の内容を的確に押さえ、文章の構成や要旨をとらえる能力を身に付けている。また、筆者の考えに対する自分の考えを明確にして表現したいという願いもっている。

そこで、本単元では、表現や文章構成に表われた筆者の意図をとらえる能力や、筆者の考えに対し、根拠を明確にしながらか自分の考えを説明しようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう」を設定した。

この学習は、絵と文章を対照させながら読んだり、筆者の意図と表現の工夫との関連について考えながら読もうとしたりする「ものの見方を広げよう」の学習へと発展するものである。

両教材共に、「人間」を題材としており、教材「感情」は、人間が生きていく上での感情の大切さ、教材「生き物はつながりの中に」は、時間的・空間的つながりこそが生き物らしさであることを述べている説明文である。また、文章構成は、「問題提起」、「問題の解明」、「まとめ、筆者の考え」となっており、文末表現などを基に、筆者の考えや表現の工夫をとらえやすいため、筆者の意図を考えながら、自分の考えを明確にして読むのに適した教材であると言える。

そこで本単元では、表現や構成に表れた筆者の意図を考えながら読み、筆者の考えに対する自分の考えとその根拠を友達と交流することを目的とする。

具体的にはまず、教材に対する意欲付けを図るために、生き物の写真等から生き物の特徴や存在意義について考えさせる。そして、教材文を通読し、大まかに内容をとらえさせた上で、

ることにより、生き物について他の人にも知らせたいという思いをもたせ、単元の目標を設定させる。

次に、教材「見立てる」について、それぞれの段落の要点をつかんで、意味段落の内容をまとめさせ、全体の要旨をとらえさせる。その後、教材文「生き物は円柱形」についても同様に行わせる。その際、要点をとらえやすくするために、新聞形式にまとめさせる。そして、それぞれのまとまりで読み取った要点を基に、要旨をリード文としてまとめさせる。

さらに、終末段階では、合同発表会を開き、5年生は筆者の主張に対する自分の考えを、6年生は、筆者の考えに対してこれまでの知識や経験を根拠にした自分の立場と考えをまとめさせる。交流し合い、感想や意見交換を行わせることで、考えを広げたり深めたりさせ、学習の有用感や達成感を感じさせる。なお、単元の特性から、学年別指導を行う。間接指導時には、少人数での学びのよさを生かし、ガイド学習を行い、「聞き方」、「伝え方」、「問い返し方」を意識した話し合いをさせ、協動的に課題解決できるようにさせる。

疑問や感想を自由に話し合わせることで、生き物について他の人にも知らせたいという思いをもたせ、単元の目標を設定させる。

次に、教材「感情」について、筆者の考えをとらえて自分の考えをまとめ、発表し合う。その後、「生き物はつながりの中に」についても同様に行わせる。その際、筆者の論証過程や表現の工夫を概観しやすくするために、新聞形式にまとめさせる。そして、筆者の考えをまとめさせたり、コラム欄に自分の考えを自分の知識や経験と関係付けて書かせたりする。

(3) 子どもの実態 (調査人数及び調査方法 5・6年生 16名 質問紙法)

本学級の子どもたちが、本単元の学習をどのように受け止め、どのような興味・感心をもっているかを調査した結果は、以下の通りである。なお、()内の数字は人数を示す。

第5学年	第6学年
<p>① 初発の感想 ※複数回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物は円柱形であることに驚いた。(6) ・円柱形という言葉がたくさん使われている。(2) ・全てが円柱形であるとは思わない。(1) <p>② 要旨の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての生き物は円柱形の形であること。(7) ・共通点を見いだすことはおもしろいということ。(1) <p>③ 文章構成の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答 (2) ・誤答 (3) <p>④ 筆者の考えに対する自分の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ○賛成 (7) ○反対 (1) <p>⑤ してみたいまとめ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞 (6) ・パンフレット (1) ・報告書 (1) <p>⑥ 難語句 ※複数回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翅脈 (5) ・葉脈 (3) ・独自性 (3) ・多様性 (4) ・角柱 (2) ・うやまう (1) 	<p>① 初発の感想 ※複数回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本物とロボットの違いが分かった。(6) ・人間として生まれてきてよかった。(1) ・自分自身は大切な存在だと感じた (1) <p>② 要旨の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物とロボットは違うということ。(3) ・生き物はつながっているということ。(2) ・自分にはかけがえのない存在であるということ。(3) <p>③ 文章構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答 (2) ・誤答 (6) <p>④ 筆者の考えに対する自分の知識や経験を踏まえた考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ○十分 (1) ○不十分 (7) <p>⑤ してみたいまとめ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞 (6) ・パンフレット (1) ・ポスター (1) <p>⑥ 難語句 ※複数回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アミノ酸 (4) ・たんぱく質 (3) ・物質 (3) ・固体 (1) ・酸素 (1)

多くの子どもたちが、「円柱形」についての感想が多く、筆者の主張に対する感想を述べている子どもは少ない。(①)これは、要旨をとらえたり、それに対する考えをもったりする学習の経験が少ないためであると考えられる。また、要旨のとらえが不十分であったり、文章構成について誤答をしたりする子どもが多い。(②③)これは、意味段落の要点の把握がしっかりできておらず、筆者からの投げかけに気付かなかったことや、因果関係などをまだ理解できていないためであると考えられる。筆者の考えに対する自分の考えは、全ての子どもがもっている。(④)

子どもたちは、生き物の特徴や筆者の考えに対する感想や表現の工夫についての感想を記述している子どもも少ない。(①)このことは、文章表現の工夫を意識した読みが十分に行われていないためと考えられる。要旨については、生き物の特徴を要旨をとらえている子どもも多く、文章構成についての誤答が多い。(②③)これは、一読では十分に内容を把握できなかったり、段落のつながりを意識した読みが不十分だったりするためであると考えられる。筆者の考えに対する自分の考えは、自分の知識や経験を踏まえて記述できている子は、少ない。(④)まとめ方に

まとめ方については「新聞作り」を挙げている子どもが多い。(⑤) これまでの経験から、新聞にまとめるよさに気付いている子どもが多いためであると考え。難語句については、生き物などに関する専門的な用語が挙げられている。(⑥)

については、「新聞作り」を挙げている子どもが多い。(⑤) これまでの経験から、新聞にまとめるよさに気付いている子どもが多いためであると考え。難語句については、生き物などに関する専門的な用語が挙げられている。(⑥)

(4) 指導上の留意点

ア 生き物が円柱形であるという筆者の主張の例に目を向けさせて読み取らせたり、単元の目標を設定させたりするために、導入の段階で、円柱形をしている生き物の写真を示し、「なぜそのような形をしているのか。」という疑問をもたせたり、教師が作成した読み取った内容や筆者の考えを記した新聞のモデルを提示したりする。

イ 要旨をとらえさせるために、各段落の重要語句や中心文から要点を新聞形式でまとめさせ、要点を関係づけていくようにする。その際、まとめの部分だけに着目することがないように、意見と事実を押させながら要旨をとらえさせることで、筆者の主張に対する自分の考えをもてるようにする。

ア 生き物はつながっているという筆者の考えの例に目を向けて読み取らせたり、単元の目標を設定させたりするために、導入の段階で、身近な生き物や人間の写真を示し、「生き物であることは、本当に素晴らしいことなのだろうか。」という疑問をもたせたり、筆者の考えやそれに対する自分の考えを記した新聞のモデルを提示したりする。

イ 筆者の意図をとらえさせるために、筆者の考えの理由や根拠に着目させたり、考えを述べるための構成の工夫について考えさせたりする。また、筆者の主張に対する自分の考えを明確にするために、筆者の考えと自分の知識や経験などとの関係付けながら、自分の立場を明確にしてまとめさせる。

ウ 読みの深まりを振り返らせ、学習に対する成就感や達成感を味わわせるために、同学年・異学年で自分の考えを交流する場を設定したり、本単元の学習が今後他教科等や日常生活のどのような場面で生かされるか話し合わせ、この学習で身に付けたことを振り返らせたりする。

エ 単元の特性や子どもの実態を踏まえ、単元を通して学年別指導を行う。その際、「異年齢集団」で学び合うよさを生かし、単元の同時導入・終末を行い、展開時には学年別指導を行う。また、間接指導時には、「少人数」で学び合うよさを生かし、ガイド学習を行い、相手に分かりやすい「伝え方」、相手と自分の考えを比較する「聞き方」や「問い返し方」を意識させ、自他の考え方を比較したり関係付けたりして、自分の見方・考え方広げたり深めたりすることができるようにする。さらに、毎時間の終末段階では、自分の考えが変容した理由を振り返らせることで、「伝え方」「聞き方」「問い返し方」を発揮した場面を価値付け、学習に進んで参加できた有能感や有用感を感じさせる。

3 目 標

(1) 自然界の生き物の特徴に関心を持ち、筆者が読者に投げかける主張を明らかにしようとしながら読もうとすることができる。

(2) 生き物の形が円柱形になる理由を考えながら、内容のまとまりをとらえることができる。

(3) ア 筆者の考えを受けて、自分の考えを書くことができる。

イ 文章構成を把握し、的確に読み取った内容から要旨をとらえることができる。

(1) 生き物の特徴に関心を持ち、読者に対して問いかけられる筆者の考えを明らかにしようとしながら読もうとすることができる。

(2) 自分の考えを発表し合い、一人一人の伝え方の共通点や相違点を明らかにしながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(3) ア 筆者の考えを受けて、立場を明確にした自分の考えを書くことができる。

イ 筆者の構成や表現の工夫に着目して読み、筆者の考えとその根拠をとらえることができる。

(4) 同学年、異学年の交流を通して、自他の考えや考え方の相違点や共通点を意識しながら聞いたり、相手の考えや考え方の分からないところを問い返したりすることができる。

4 指導計画（第5学年7時間、第6学年8時間）

過程	学習課題・主な学習活動(第3学年)	学習課題・主な学習活動(第4学年)
つかむ・みとらす	1・2 教材との出会い・試行・課題解決の見通し《診断的な振り返り》 「題名や初発の感想から単元のめあてを設定しよう。」 ・初発の感想発表 ・単元の目標設定 ・学習計画の立案 「要旨のまとめ」(試し書き) 「生き物は円柱形」新聞を作り、考えたことを学級の友達と伝え合おう。	「筆者の考えに対する自分の考え」 「生き物はつながりの中に」の筆者の考えに対する自分の考えをもち、学級の友達と伝え合おう。
	2 限定された範囲での試行錯誤 『見立てる』では、筆者はどのようなことを伝えなかったのだろうか。 ・文章構成 ・意味段落の要点 ・要旨のとらえ方 ・自分の考え	2 限定された範囲での試行錯誤 『感情』では、筆者はどのようなことを伝えなかったのだろうか。 ・文章構成 ・意味段落の要点 ・要旨 ・対話しながら読むこと ・自分の考え
しらべる	3～5 広い範囲での試行錯誤 3 「『生き物は円柱形』」の文章構成をとらえ、学習計画をたてよう。 ・説明文の構造 ・各意味段落の役割 4・5 「生き物にとって円柱形は、どのような利点があるのだろうか。」	3～6 広い範囲での試行錯誤 3 「『生き物はつながりの中に』」の文章構成をとらえ、学習計画をたてよう。 ・説明文の構造 ・各意味段落の役割 4・5 「生き物には、どのような特徴があるのだろうか。」 6 「なぜ、筆者の考えは、問いかけになっているのだろうか。」
	6 試行の見直し《形成的な振り返り》 『生き物は円柱形』で、筆者はどのようなことを伝えなかったのだろうか。(本時6/7)	7 試行の見直し《形成的な振り返り》 7 「自分の考えを分かりやすく伝えるには、何を書けばよいのだろうか。」(本時6/8)
ふかめる	7(5年生), 8(6年生) 考えの交流、振り返り・評価 《総括的な振り返り》 ・自分の考え ・考えの交流 ・学習の振り返り	
ふかめる・いかに	要点を記事としてまとめ、リード分に要旨を書いた新聞を基にすると、筆者の考えがとらえやすくなり、自分の考えをもつことができた。	筆者が何を伝えたいのかを考えながら読むと、筆者の考えに対する自分の考えをもつことができた。 友達と交流し、自分の考えと友達の考えを比較することで、考えを広げたり、深めたりすることができた。

5 本 時（第5学年：6／7、第6学年：6／8）

(1) 目 標

「多様」や「共通性」など重要語句に着目して、筆者の考えを考えることを通して、文章の要旨についてまとめることができる。

筆者の挙げた事例と自分の知識や経験とを関係付けながら筆者の考えに対する自分の考えをまとめることができる。

(2) 指導に当たって

筆者の主張である要旨を見出させるために、「多様」や「共通性」などの重要語句や断定的な文末表現に着目させ、「始まり」と「まとめ」の叙述を関係付けて、筆者が伝えなかったことに気付かせる。

筆者の考えに対する自分の考えを分かりやすく伝えるために、「生き物として生きていることはすばらしい」という筆者の考えに対する自分の立場を明確にさせ、自分の考えと身近な事例や自分の経験とを関係付けさせることで、考えの根拠を含めて記述させる。

学年別指導の中で、ガイドの司会による話し合いを中心とした授業を行う。5年生は要旨をまとめるところを、6年生は筆者の考えに対する自分の考えまとめるところを話し合わせる。その際、意見の交流が活発に行われるような話し合いになるように、小黒板等を用いる等して板書の仕方を工夫する。また、自他の考え吟味させ、考えの練り上げをさせるために、互いの考えに対して、「なぜ、そのように考えたのか。」「なぜ、そのようなことが言えるのか。」といった「問い返し方」を意識させ、考えの根拠を明確にさせながら話し合わせる。また、終末段階では、両学年同時に、集団の学びにおける自分のかかわりによって考えが強固・付加・修正されたことに気付かせるために、「思考の過程」、「思考の結果」「他者とのかかわり方」の観点から、学習を振り返りと価値付けを行うようにする。

(3) 実 際

主な学習活動 (第5学年)	教師の位置と具体的な働きかけ	主な学習活動 (第6学年)
<p>1 前時までの学習を振り返り、学習課題を設定する。 『生き物は円柱形』で、筆者はどのようなことを伝えただろうか。</p> <p>2 課題解決への見直しをもち、学習の流れを話し合う。 (解決への見直し) ・筆者の主張を要旨としてまとめ、(一人調べ) ・まとめたものを交流し合い、まとめ方について話し合う。</p> <p>3 筆者の主張を要旨としてまとめ、(丸) 4 まとめたものを交流し合い、まとめ方について話し合う。 円柱形は強くて速い 共通性を見いだす 理由を考えることは、 おももしろいということ。 「なぜ、そのように考えたの。」(問い返し方) 繰り返し使われている言葉が 説明文は、「はじめ」「まとめ」 に筆者の考えがあるから。 「はじめ」と「おわり」の繰り返し使われている言葉に着目し てみるという方もいいね。</p> <p>【第1段落】 ・生き物らしいところ ・共通性がある ・生き物は円柱形だ」 【第1段落】 ・生き物は実に多様 ・多様性を知ることはおもしろい ・共通性～実におもしろい</p> <p>「まとめ」には、「円柱形」の言葉は出てこないね。「円柱形」を例にして伝えたいことが別にあるということだね。 筆者は、生き物の多様性を知ること、多様な物の中から共通性を見いだす、なぜ同じなのかを考えることはおもしろいということだね。</p> <p>5 本時のまとめを行う。 生き物の多様性を知ること、多様な物の中から共通性を見いだす、なぜ同じなのかを考えることはおもしろいということ。 筆者の主張に対して自分が考えたことをまとめ、(丸) 6 自己評価を行い、本時の学習で考えたことを交流する。 ○○さんの口という考えは、自分には気が付かない考えであるほど なと思いました。(付加・修正)</p>	<p>直接指導 問いを焦点化させるために、要旨についてのモデル文を提示し、書く内容として何が足りないかを話し合わせる。 本時の課題解決に向けて見直しをもたせるために、設定したことから、解決方法を話し合わせる。 互いの考え方の違いを明確にさせ、互いの考えとそ 方の共通点や差点に気づかせる。その際、相手の考えの根拠を問うことを意識させる。 第1段落と第1段落の叙述を関係付けて筆者の主張を繰返させ、重要語句を比較し、重要語句に注目させる。その後、重要語句を手がかりにして筆者の主張について話し合わせる。 筆者の主張に対する自分の考えを記述させるために、初めの感想と比較させながら、読み深めたことを基に自分かどう考えたかをまとめ、その理由を話し合わせる。</p> <p>(分) 1 5 5 12 8 8 6</p> <p>間接指導 問いを焦点化させるために、筆者の考えに対するモデル文を提示し、書く内容として何が足りないかを話し合わせる。 本時の課題解決に向けて見直しをもたせるために、設定したことから、解決方法を話し合わせる。 筆者の考えをまとめる際の視点を見出し、内容を分かりやすく伝えるという観点で比較し合った後、ガイド学習を行い、書く視点の共通点、互いの考えをくみ取りながら話し合わせるために、考えの根拠を明瞭に話したり、問い返したりすることを意識させる。 筆者が挙げた事例と自分の体験を関係付けながら自分の考えをまとめさせるために、見出した視点を基に筆者の考えのどのような点に共感できるか、できないかを明確にさせ、それがどんな自分の知識や経験に基づいて考えたかを整理させるようにする。</p>	<p>1 前時までの学習を振り返り、学習課題を設定する。 筆者の考えに対する自分の考えを分かりやすくまとめるには、どのように書けばよいか。</p> <p>2 課題解決への見直しをもち、学習の流れを話し合う。 (解決への見直し) ・筆者の考えを交流し合い、まとめ方について話し合う。</p> <p>3 自分の考えをまとめ、(丸) 4 まとめたものを交流し合い、まとめ方について話し合う。 筆者の生き物として生きていることはとてつねで、自分だけでなく他も大切な存在である。 自分のすべての生き物は、長い生命のれきしがあって生まれたから、自分の命は大切だと考える。 「なぜ、そのような書き方をしたの。」(問い返し方)</p> <p>友達の書き方 自分の記述 比較 筆者の考えに賛成か、反対なのかを自分の立場を対比させると考えが分かりやすいね。 ○○さんは、自分の考えの理由として、具体的な例を挙げているから、分かりやすいね。 (見いだした視点) 「自分の立場を明確にする」「知識や自分の経験と結び付ける」 自分の記述を関係付ける</p> <p>(自分の考え) 筆者の生き物として生きていることはとてつねであるという考えに対して、共感できる。なぜなら、私は母に顔が似ていると言われる。私と母や祖母が、長い歴史の中でつながっているからだと感じたからだ。私は、長い歴史の中でつながっている自分の命を大切にしていきたい。</p> <p>5 本時のまとめを行う。 筆者の考えに対する自分の立場をはっきりとさせ、身近な事例や自分の経験を入れてまとめるとよい。 6 自己評価を行い、本時の学習で考えたことを交流する。 ○○という考えが、○○さんに納得してもらいまとめに生かすことができました。(強固)</p>